



東京経済大学 新次郎池周辺整備

株式会社グラック

北川明介・西山秀俊・岸井悠子・藤田芽衣

本プロジェクトは、東京経済大学が国分寺崖線の緑の回廊の一角をなす緑地として維持保全してきた湧水池「新次郎池」とその周辺の樹林「東経の森」を対象とし、大学創立120周年記念事業の主事業として進められた環境整備事業です。

整備設計にあたっては、対象緑地の課題解決、改善を図るだけでなく、自然との共存を掲げる大学の「エコキャンパス宣言」

を具現化し、記念事業として相応しい、次の時代へとつなぐ森に整備することが求められました。

これに応えるため、「東経の森」の水と緑を最大限生かした資源活用型の森づくりに取り組みました。

地域に開かれた交流の森づくり

【新次郎池】

「新次郎池」の名で、地域の人たちに親しまれてきた国分寺崖線固有の水・緑環境を活かし、大学の環境への思いを映す場として、そして大学と地域の人々との出会い、語らう交流の場「結の水広場」としてデザインしました。

作品概要

作品名——東京経済大学 新次郎池周辺整備
 所在地——東京都国分寺市
 発注——東京経済大学総務部
 設計——株式会社グラック
 設計協力——(植栽設計)東光園緑化株式会社
 (パーゴラ・ベンチデザイン)浅香信太郎デザイン室一級建築事務所
 (擁壁設計)株式会社 企工社
 監理——株式会社グラック
 設計期間——2019年5月～2019年12月
 施工期間——2020年2月～2020年10月
 規模——約8,000㎡
 主要施設——新次郎池、湧水口、パーゴラ、デッキ階段、スツール、案内施設等

作品評

本作品は、国分寺市に位置する大学キャンパス内に保全されてきた湧水池「新次郎池」と樹林「東経の森」の環境整備のために調査・設計を行った業務である。対象地が立地する国分寺崖線沿いには殿ヶ谷戸庭園やお鷹の道など歴史を感じる名所が多く、湧水と斜面樹林により水辺と緑の回廊を形成している。大学創立120周年記念事業である環境整備は、武蔵野台地に残る貴重な環境資源を活用して魅力的に再生し、大学内だけに留まらず広く訴求することが求められた。応募者は、水と緑の再生による大学と地域を結ぶ「縁結び」のコンセプトのもと、教職員や地元の人々を受け止めながら、水辺や森の再生を明快にデザインし、水辺や森がもたらす魅力を十分に発揮し、学生や来訪者が楽しむことができる空間づくりに成功している。国分寺崖線の歴史と文化の品格を感じる景観を形成し、後世に残していきたい水と緑の再生を実現した作品である。



①大学と地域と結ぶ交流の場となる「新次郎池」まわりの水上デッキ ②東経の森への入口となる「森のリビング」
 ③森と池を一望する「森の展望台」 ④斜面樹林を巡る「森の回廊」 ⑤木漏れ日のみち
 ⑥⑦⑧多様な水の表情を見せる湧水口と落水、せせらぎ

【森の展望台】

学びの場であるキャンパスが依って立つ「森」を展望する特別な場所として「森の展望台」をデザインしました。

【森のリビング】

既存のモミジの大樹を中心に据えて、学生たちが集い、憩う屋外のリビング空間としました。このリビング端部には、森へのいざないを演出する縁側空間として斜面樹林に張出した木製デッキを設置しています。

多様性を楽しめる森づくり

斜面樹林の地形と植生を最大限残した空中デッキ「森の回廊」

や既存通路を再整備した「木漏れ日のみち」など、多様な森の表情を楽しめる散策路をつくり出しました。

五感を呼び起こす水辺のデザイン

新次郎池は、「東経の森」を象徴する唯一無二の環境であるとの認識のもと、地下水脈の存在を想起させる湧水や多様な表情を見せる池水面の景を最大限表出させ、感じさせることが重要と考えました。そこで、水の動きの強調、自然を映し出す水鏡づくり、聴覚を刺激するサウンドスケープの3つの視点から五感に訴えるデザインを進めました。